

「平塚市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価（暫定版）」に対する御意見について

「子ども・子育て支援事業計画の点検・評価（平成30年度暫定版）」に対する御意見について、次のとおり担当課から回答がありました。

（施策番号・事業名）3（1）10 学校支援ボランティアの活用

【御意見】

「ボランティアの活用を図るための支援を行った。」とありますが、これは先生方を対象としたものでしょうか。それともボランティアの方を対象として行われたのでしょうか。又、主なものだけでも「こういう内容の支援を行った」というものが書かれているとよく分かるかと思えます。

【回答】

各学校では、それぞれの実情に応じて、授業や行事等に関わる支援、読み聞かせや図書室整理に関わる支援、校舎内外の環境整備に関わる支援等について、学校支援ボランティア等地域の人々の教育力を活用しております。

（担当課：教育指導課）

平成30年3月19日（月）に開催しました子ども・子育て会議子育て支援事業推進部会において、部会委員からいただきました御意見について、次のとおり担当課から回答がありました。

（施策番号・事業名） 1（3）9 芸術文化子ども体験事業

【御意見】

当事業の検証結果は、「A：成果があがった」となっている。おそらく各地区事業の実施箇所数が増加しているからだと思うが、全体事業の参加人数は年々減少している。各地区事業の実施箇所数のみで検証結果をつけるのであれば、「A：成果があがった」で構わないと思うが、全体事業も当事業の取組みとして位置づける場合、評価をAとするのはおかしいのではないか。もし、全体事業を当事業の取組みとして位置づけないのであれば、【参考】として記載するなど表記を検討する必要がある。以上のことをふまえ、検証結果について再検討していただきたい。

【回答】

お見込みのとおり、当事業の実施地区が増加したことを根拠に「A：成果が上がった」とさせていただきます。これは、「（前略）芸術文化を体験することで、（中略）豊かな人間性を育む機会を提供」することが当事業の目的であること、また、「事業未実施の地区や学校に働きかけていく必要がある」という昨年度あげた課題をもとに実際実施地区を増やすことができたことによるものです。

もちろん全体事業も当事業の一環ではありますが、同時に各地区での実施にあたってのモデル事業としての側面も持ち合わせています。全体事業はスタッフとして協力いただく各地区の方々が当事業の開催方法を学ぶ機会でもあるため、児童・生徒の参加人数のみで成果検証はできないと考えております。逆に、全体事業の参加者は主に当事業が開催されていない地区の児童・生徒であることから、各地区で当事業開催のノウハウが形成できたことを示す指標として判断しております。

以上のことから、社会教育課としましては当事業の評価を「A：成果が上がった」とさせていただきます。

（担当課：社会教育課）

以 上